

〔朝鮮学報〕第199・200輯合併号 別刷

平成 18 年 7 月刊

2006

現代朝鮮語の丁寧化のマーカ― “-yo/-iyo” について

野 間 秀 樹

現代朝鮮語の丁寧化のマーカ― “-yo/-iyo” について

野 間 秀 樹

【要旨】본고의 목적은 현대 한국어에서 주로 회화체에 나타나는 ‘-요/-이요’라는 형태의 형태소 인정과 그 기능을 고찰하는 데에 있다. 기존의 연구와 사전류에서는 ‘-요/-이요’에 대해서 ‘-요’만을 형태소로 인정하고 정서법에서도 ‘-요’로 표기해야 한다는 주장이 주류를 이루고 있다. 그러나 현대 한국어의 언어사실을 조사해 보면 ‘-요/-이요’는 원칙적으로 다음과 같은 분포를 보이고 있음을 알 수 있다:

- 1) 모음으로 끝나는 단어, 조사류, 어미류에는 ‘-요’가 붙는다
- 2) 자음으로 끝나는 조사류, 어미류에는 ‘-요’가 붙는다
- 3) 자음으로 끝나는 단어(실사)에는 ‘-이요’가 붙는다

따라서 형태소로서는 ‘-요/-이요’를 인정하여야 하며 또한 정서법상으로도 ‘-요’와 ‘-이요’, 둘 다 인정하여야 한다. 단, 자음으로 끝나는 단어 뒤에도 ‘-요’가 붙는 경우가 있어서 이것이 기존의 연구에서 ‘-요’만을 인정하게 된 계기가 되었던 것으로 생각된다. 한글 표기에 있어서는 ‘-지요’를 ‘-죠’, ‘-시오’를 ‘-쇼’로 발음하는 등, 2 음절로 발음하는 대상을 1 음절로 발음하는 것은 사실상 행해지고 있어도 ‘-이요’라고 2 음절로 발음되는 것을 ‘-요’와 같이 1 음절로 표기하는 습관은 존재하지 않는다. 그러므로 발음상 ‘-이요’라는 형태가 나타나는 이상, 그러한 경우에는 ‘-요’로 할 수는 없는 것이며 반드시 ‘-이요’로 표기해야 하는 것이다.

‘-요/-이요’는 활용을 하지 않는 것을 보아도 알 수 있듯이 학교문법에서 말하는 ‘서술격 조사’ 즉 ‘지정사’(指定詞) ‘-이다’와 ‘-요/-이요’는 별개의 존재이며 지정사의 ‘해요’체 형태도 아니다. 또한 2)의 경우에는 흔히 ‘-요’ 앞에 ‘ㄴ’ [n] 삽입이 일어나 [njo]로 발음되기도 한다. 이 [n] 삽입 현상이 일어난다는 점에서도 [n] 삽입 현상을 일으키지 않는 지정사와 분명히 구별된다.

당해 발화를 공손한 것으로 만드는 것이 ‘-요/-이요’의 본질적인 기능

이다. 그리고 그 용법으로서서는 되묻기, 대답, 문장(sentence)의 종지나 일시적인 중단 등 몇 가지 특정한 표현에 즐겨 쓰이는 것을 확인할 수 있다.

目 次

- 1.はじめに
2. -요/-이요의形態
3. -요/-이요의機能
4. おわりに

1. は じ め に

本稿の目的は、主として〈話されたことば⁽¹⁾〉の中に多く現れる、次のような-요/-이요の形と機能について考察することにある：

멋진 일은 아니구요. 그냥 즐기고 있습니다, 일을. —일을요?
—예.

かっこいい仕事じゃなくてですね, ただ楽しんでるんですよ, 仕事を. —仕事をですか? —ええ。

그러면 학교 휴학 중이시면은 몇 학년? —2학년 휴학 중이구요. —2학년이요? —⁽²⁾예.

じゃ、学校休学中ってことは、何年生? —2年生の休学中でですね. —2年生ですか? —はい。

ここでは暫定的に-요/-이요と表記したけれども、実はこの形態素の認定は、-요/-이요とするべきなのか、あるいは-요か、さらにまた-요/-이요とするべきかという点からして、文法論上の決着を見ていない。あるいは、とっくに決着がついているという大いなる誤解の中にあるといってもよい。本稿は、こうした形と正書法に関わる問題を解決し、

現代朝鮮語の丁寧化のマーカ―“-yo/-iyo”について(野間) (39)

さらにその機能はいかなるものかということについて論じるものである。

2. -요/-이요の形態

2.1. -요/-이요の形態についての既存の考え方

この形は大韓民国の正書法の規定には現れない。これについては形態素をいかに認定するか、次の3つの考え方が存在する：

- 1) -요
- 2) -요/-이오ないしは -요/-오
- 3) -요/-이요

2.1.1. -요单独説

1) の-요单独説は、同時代の最大規模の優れた辞書である국립국어연구원 (1999) に代表される。同辞書は見出語に-요は立項しているが、-이요や-이오が立てられていないことを見ても、形態素は-요のみを認定しようとしたことがわかる。-요の項を見ると次のごとくである：

요 [助詞] ① 《主に해体に用いられる終結語尾や一部하개体に用いられる終結語尾の後ろについて》聞き手に尊待の意を表す補助詞。格式を整えねばならぬ相手にはそれほど用いられない。돈이 없어요./ 기차가 참 빨리 가지요./ 잠이 안 오는 걸요./ 새싹이 돋는 군요./ 녹장 부리다가는 차 시간을 놓치게요?/ 언니, 나를 모르겠어요? ② 《体言や副詞語, 連結語尾などの後ろについて》聞き手に尊待の意を表す補助詞。마음은요 더없이 좋아요./ 어서요 읽어 보세요./ 그렇게 해 주시기만 하면요 정말 감사하겠습니다. (引用者訳)

上の記述で明らかなように, 없어요や가지요,そして돋는군요といった, 用言の1単語にまとめられた総合的な形の終止形の末尾に現れるも

のと、「오는 걸요」のように用言の分析的な形の終止形⁽³⁾についたもの、さらに「놓치게요?」のような用言の副詞形についたものを、①にくくって同一視している。最後の「놓치게요?」はこれだけでは定かでないが、副詞形もしくは接続形あるいは終止形であるこの形を、もしや「一部하게体に用いられる終結語尾」の後ろについたものと解しているとしたら、明らかな錯誤であろう。上の記述なら当然「終結語尾」か②の「連結語尾」の後ろについたものとされるべきである。②の「体言や副詞語、連結語尾などの後ろについて」の用例も問題である。「副詞語」についた어서요、「連結語尾」についた하면요はよいが、마음은요は体言に直接ついたものではなく、形式的には助詞についたものである。体言に直接ついたものは挙げられていない。もっとも「名詞+助詞」の組み合わせを「体言」と見ているのなら、構わないことになる。

연세대학교 언어정보개발연구원 (1998) も上記辞書と軌を一にする：

요 [助詞] [1] ① [‘-어’, ‘-지’, ‘-을래’ など해体の一部の用言の終結語尾について]話し手が聞き手に親しい尊待 (친근한 높임) を表すのに用いる。해요体をなす。준호는 컴퓨터랑 잘 놀아요./ 가야지요./ 말은 나중에 해요. ② [独立した句成分の後ろにつき] ことばを結ぶのに用いる。선생님, 저는요? 시장에들요? 왜요? 빨리요, 빨리.

[2] 独立的な句成分のあとについて用いられ、口癖のように文の間にも用いられ; 言うべきことばを選んだり、ためらうのに使用される。저는요, 어제요, 학교에 갔는데요, 배가 아파서요, 중간에 도로 집으로 와 버렸어요.

[3] 一部の階層や方言などで、話し手自身をより低めることで聞き手をより高めることを表す。아름니다요 아파./ 전선에 투입될 채비를 전부 한다면야 그것이 그것아닙니까요? 갑니다요 가.

(引用者訳。分がち書きは原文のまま)

ここでは文末に来るものを [1] とし、文中に立つものを [2] とし

現代朝鮮語の丁寧化のマーカ―“-yo/-iyo”について(野間) (41)

ている。なお[3]は方言などことわりがあるのを見てわかるごとく、ソウル方言とは言いがたいもので、本稿では触れない。ここでも[1]の②の用例には、体言に直接つく例が挙がっていない。

なお、共和国最大の辞書である사회과학원언어연구소 편(1992)においても、-이요は見当たらず、-요が立項されているだけで、次のような簡単な記述があるのみである：

-요 [토] 《높임》, 《강조》의 뜻을 더해주기 위하여 각종 형태의 단어에 자유롭게 붙는 토. // 어디를 가십니까~. 좋습니다~. 그렇게 해주시기만 하면~. 어서~. 가시자~.

「가시자요。」といった、韓国では一般には用いられないような例が挙がっている点から、共和国での-요についての現れ方は韓国での議論と同一視しないほうがよさそうである。共和国でのみ現れるこうした-요については、本稿では論じない。

菅野裕臣(1981: 164-165)では、用言の接続形につく-요のみに言及しているが、-이요が現れそうな環境についての言及はない。ただ、次の菅野裕臣他(1988)から推し量ると、おそらく-요単独説だと思われる。

菅野裕臣他(1988)は、-요のみを立項する点では上記の2つの辞書と同じだが、用言の終止形を作る-요を別に立て、体言などにつくものについては「-의以外の体言語尾、連体形以外の用言の形、副詞等(冠形詞を除く)の末尾について」と述べており、単に「独立的な句成分のあとについて」といった記述より精密になっている。また[표] [표]のように発音の変化が起こりうることも記載されている。국립국어연구원(1999)などには菅野裕臣他(1988)の成果は取り入られていないわけである。

深見兼孝・多和田眞一郎(1993: 159-170)は、-요/-이요を対象として取り上げた、貴重な論考である。そこでは「指定詞」を認めるかどうかという立場によって、{요}の「従属度」が異なって来るという主張が述べられ、その中に「叙述格助詞」を認めた場合は{이요}は{요}

の異形態ということになるという記述がある。ここでは-요のみを挙げており, -이요という形は考え方によるか, あるいは認めていないかのように読める。なお, 文末の問題に限定しており, かつ해요体を作る-요も全て同一視している。

内山政春 (2004: 53) では「聞き返しの요」という形で取り上げ, -요の単独説に立っている。「母音のあとでも子音のあとでも同じように요をつければよいのです」という記述と共に, 「책요? (本ですか)」「식당가서요? (食堂に行ってますか)」という用例が挙げられている。

2.1.2. -요/-이오説

2) の-요/-이오ないしは-요/-오説は, 説として文法書などに現れているものは管見では見出せないものの, 教材などの表記から推し量ると, そう判断せざるを得ないものが多々存在する。間投詞아니の敬意体は, 国立国語院などでも強調しているように, 正書法上は아니요ないしはその短縮形である아뇨と表記すべきもので, 아니오は正書法上は誤りであるが, 面白いことに, 韓国で発行された韓国語教材にはしばしば現れる。そうした教材には-요も多々現れることから, -요/-이오ないしは-요/-오説と仮にくくっておこう。これはいわゆる하오体の語尾に関する正書法の規定を読み誤っているものと思われる。これらの点については後にも触れることにする。

2.1.3. -요/-이요説

3) の-요/-이요説は, 例えば, 韓国や共和国と異なるユニークな考え方をしばしば見せてくれる辞書である Martin・李敦河・張聖彦 (1968: 1226, 1334) を挙げうる。これは1960年代という古い時代の著作という点に鑑みて, 画期的なものだといえよう:

(·)요 yo, 1, 2. *alternat after vowel of*—이요 iyo: 1. (polite particle) SEE—어·요, -지·요, -은·가·요, -나·요, -습니다·요. // 누구·요. Who (is it)? CF. 누구 요(<이오) Who is it? (AUTHORITATIVE STYLE—see 4

below). 2. = 이고 (is and). 3. *abbr.* <-이요 (polite particle). SEE (-을)걸·요. // 김 선생·요 (=이요) (It's) Mr. Kim. 4. *abbr.* (*alternant after vowel*) <이오 (AUTHORITATIVE copula). 김 선생요 (=이오) It's Mr. Kim. // 김 박사 요 It's Dr. Kim.

上の中で「3」の「-이요(丁寧の助詞)の短縮形」という記述, 「김 선생요 (=이요) (It's) Mr. Kim.」という用例が注目される。これがいわゆる指定詞の하오体と区別されていることは「4」の「김 선생요 (=이오) It's Mr. Kim.」という用例を別に挙げていることでわかる。-습니다요や누구요が同列に並んでいる点など問題はありそうだが, 早い時代の辞書であることを考えるとき, 注目すべきであろう。当然, -이요も立項されている:

·이요 *iyō, pcle.* (polite) [Shape is 요 after vowel.] 1. (after noun expressions, makes polite sentence-fragments.) 누구·요? —순경·이요. “Who (is it)?” “The police.” // 전보·요! —저·한테·요? “Telegram!” “For me?” // 그림·이요 ... Well, now.... (以下해요体の-요の記述が続く)

また, 日本における-요/-이요説としては, 野間秀樹(1988: 76-77)が比較的早くからのものである。そこでは「聞き返しに用いる語尾」として「母音語幹に」は“-요(?)”, 「子音語幹に」は“-이요(?)”を用いるとし, 「저 사람 이름은 뭐라고 합니까? —박 인수씨라고 합니다. —네? —박 인수씨라고요. —박 인수씨요? —네, 그래요.」, さらに「네? 뭐가요?」といった例を, 指定詞の学習が終わってすぐの早い段階で提示している。⁽⁴⁾-요/-이요のうち, 「聞き返し」の用法についてのものだけとはいえ, 朝鮮語教育では初めて意識的に学習項目として取り上げたものようである。野間秀樹(2000: 59)でもやはり「聞き返しの語尾」として-요/-이요を挙げている。野間秀樹・金珍娥(2004: 38, 43-45)では「丁寧化の応答語尾」および「丁寧化の中断語尾」として聞き返しのみならず-요/-이요の全体を大きく扱っており, 野間秀樹(2004:

100-101) では「丁寧化の-요/-이요」を「丁寧化語尾」として扱っている。野間秀樹・村田寛・金珍娥(2004: 61)でも「丁寧化語尾」として-요/-이요の形を提示している。金珍娥(2005: 12-18)は「丁寧化のマーカ―」の名称を用いて、-요/-이요という形で扱っている。同じく野間秀樹・金珍娥(2005: 104-108)でも-요/-이요説である。

「ナチュラルスピード」で録音された「リスニングドラマ」の形をとったとする朝鮮語教材である兼若逸之(2003)は用例の中に、各所で-요と-이요の両方の形を示していることから、-요/-이요説に立っているのだと思われる。ただこれらについての統一的な解説はない。

韓国で作られた教材である李相億他(1994: 48)は“-이요”を学習項目として、やはり比較的早い段階で提示している。韓国で作られた学習教材のうち、-요/-이요を明示的に取り上げているものが少ない点に鑑みると、注目すべきものである。「그 사람이요? その人ですか。(その人のことですか。)」などの例を挙げ、「-이요」は子音で終わる名詞につく」としていることから、-요/-이요説と思われる。ただし、母音で終わる名詞につく例は同書には出てこない。

インターネット教材上でも、例えば <http://www.columbia.edu/cu/ealac/korean/> に見えるコロンビア大学の学習教材では、「N(이)요」と定式化し、「점심 때 뭐 먹었어요? — 햄버거요.」「소포에 뭐가 들어있어요? — 책이요.」「저 가게에서 뭐 샀어요? — 꽃이요.」「경제학 수업을 누가 가르치세요? — 스미스 선생님이요.」などといった音声付の応答をあげている。なお、注目すべきことに、音声もほぼナチュラルスピードで[이요]と発音していることがはっきりわかる。

2.1.4. -요/-이요の意識化

本稿で問題にしているような-요/-이요は、その表記いかに関わらず、上にあげたような一部の辞書を除いて、文法書、学習書を問わず、ほとんど意識化されておらず、明示的に記述されていなかったのが実情である。

例えば、朝鮮語と他言語間の、世界最大の画期的な辞書であったとい

える大阪外国語大学朝鮮語研究室(1986)でも、体言などにつく-요は立項されていない。

日本語と朝鮮語の二言語辞書として広く用いられた、貴重な辞書である安田吉実・孫洛範(1989: 1667)でも、基本的に韓国の学校文法で言う「叙述格助詞」、つまり日本の朝鮮語文法論の多くが採用している名称では指定詞である-이다の、「終止形」と「連結形」の2種と, 해요体を作る-요を「特殊助詞」としているだけで、本稿で問題にしている-요/-이요に関連した記述は見られない。これでわかるように、-요/-이요についての記述が見えないのは、特にこの辞書だけの限界というわけではなく、今日までの大部分の辞書や教材に共通して見られる限界であったといってよい。

1970年代に現れた語彙研究の画期的な成果であった梅田博之(1976)でさえ、重要な語彙項目、文法項目はまずもれなく盛り込んでいるにも関わらず、-요/-이요は見出しとして挙げられていないし、文法の解説にも現れない。梅田博之(1985: 174)では그럼요の解説に「そうですとも。そのとおりです(相手の意見に強く同意する間投詞。요をとれば丁寧でない言い方になる)」という記述が見える。해요体の-요をのぞけば、これ以外にはテキスト本文には-요/-이요は現れない。梅田博之(1991)の「文法形式索引」にも見えない。

菅野裕臣(1981: 164-165)では、-요/-이요のうち、接続形につくもののみではあるが、「괜찮고요」「구경할 수도 있고요」「도라지 꽃이 피고요」といった用例に対し、「接続形の上称形」の名称で「接続形に-요をつけて目上に対するていねいさをあらわすことがあります」という言及がある点が注目される。

1970年代から1990年代を代表する、こういった優れた学習書類にも-요/-이요が明示的に現れていないことを見ても、朝鮮語文法論、朝鮮語教育がこの-요/-이요をいかに意識化していなかったが見て取れよう。これが意識化されるのは、上述のMartin・李敏河・張聖彦(1968)、野間秀樹(1988)などにはじまり、韓国の朝鮮語教育では李相億他(1994)、백봉자(1999)を待たねばならなかった。とりわけ백봉자(1999:

379-381) の記述は簡潔に整理された記述になっており、形態は-요の(6)みではあるとはいえ、-요/-이요が学習項目としてようやく認知されたかの感がある。이희자・이종희 (2001: 725-726) も「文の終結助詞」としてとりあげている。用法は3つに分け、「해요体を作る」と「합나다요」と並んで、「文の中間に用いられる」用法として挙げている。

日本では上述の野間秀樹 (2000: 59), 内山政春 (2004: 53) が「聞き返し」の用法で取り上げているほか、野間秀樹・金珍娥 (2004: 38, 43-45), 野間秀樹 (2004: 100-101), 野間秀樹・村田寛・金珍娥 (2004: 61) が現れ、「聞き返し」のみならず、-요/-이요の様々な用法について扱うことが徐々に広まっているといえよう。なかでも金珍娥 (2005: 12-18) は入門段階で6ページ以上にわたってとりあげ、なおかつ指定詞-이다との違いにも言及するなど、文法書でも論じられていない部分にまで踏み込んでいる。野間秀樹・金珍娥 (2005: 104-108) は指定詞-이다との違いをさらに詳しく論じている。

韓国のいわば標準的な優れた文法論といえる남기심・고영근 (1985; 1993: 105) でも「봄이 왔어요」の-요, つまり해요体を作る-요を「높임」(高める)の意を表す「終結補助詞」とするのみで、-요/-이요についての言及は見えない。しばしばユニークな知見を示す Lee Keedong (1993) にも-요/-이요についての言及はない。

朝鮮語の形態論を幅広く扱った高永根 (1989) にはさすがに言及が見える。高永根 (1989: 296-297) では-네요, -거든요, -(으)르께요などと並んで,-(스)니다요なども扱われている。そこでは「このほかに“요”は一般的な助詞のあとにもつくことがある」という記述があり、本稿で問題にしている「제가요, 도망어요, 오늘은요」といった例が示されている点で、注目される。ただ、こうした例についての、それ以上の詳しい記述は見られない。

2.2. 国立国語院の見解

既に見たように、韓国の朝鮮語教材では-요/-이요はほとんど現れていない。そうしたなかで、国立国語研究院 (のちに国立国語院と改称)

現代朝鮮語の丁寧化のマーカー “-yo/-iyo” について (野間) (47)

の「カナダ電話質問室」で-요/-이요に関わる質疑応答がなされている。国家的な機関の見解でもあり、また現状をよく表す応答でもあるので、ここで見ておくのも役に立つであろう。以下は、-요/-이요問題への解答だとしばしば誤解されているくだりで、元「カナダ電話質問室」の答えを2000年にホームページ上に「자주 나오는 질문」(FAQ)として移したものである。2005年1月16日のサイトから引用する：

国立国語院 HP より 2005/01/16

조회수 : 4288 ‘공책이오’와 ‘공책이요’ 중 어느 것이 맞습니까?
‘공책이요’와 ‘공책이오’ 중 어느 하나가 맞고 다른 하나는 틀렸다고 할 수 없습니다.

‘공책이요’로 써야 할 때가 있고, ‘공책이오’로 써야 할 때가 있는 것입니다.

‘공책이요’의 ‘-요’는 어떤 사물이나 사실 따위를 열거할 때 쓰는 연결 어미로, “이것은 공책이요, 저것은 연필이요, 그것은 책입니다.”와 같은 경우에 씁니다.

‘공책이오’의 ‘-오’는 설명, 의문, 명령, 청유의 뜻을 나타내는 종결 어미로, “어서 오시오.”, “따님이 참 예쁘오.”, “비가 오려나 보오.”, “얼마나 심려가 크시오?”, “부모님이 기다릴 테니 빨리 집으로 돌아가오.”와 같은 경우에 씁니다.

참고로 ‘요’은 듣는 사람에게 존대의 뜻을 나타내는 보조사로 쓰이기도 하는데, “돈이 없어요.”, “기차가 참 빨리 가지요.”, “마음은 요 더없이 좋아요.” 등과 같은 예에서 볼 수 있습니다. 이때의 ‘요’는 “돈이 없어.”, “기차가 참 빨리 가지.”, “마음은 더없이 좋아.”처럼 종결 어미나 체언 따위 다음에 붙는 것입니다.

指定詞-이다の하오体の終止形-이오と、やや古風な表現である接続形-이요との区別を述べたものである。母語話者の間でもこうした問題に混乱が見られることがよくわかる応答である。最後に「参考までに」として「요は聞き手に尊待の意を表す補助詞として用いられもしますが」

と付け加えている。「마음은요 더없이 좋아요。」と「마음은 더없이 좋아。」を提示し、「終結語尾や体言などの後ろにつく」としている。ここでも해요体を作る-요と、本稿で問題にしている-요/-이요を区別していないことがわかる。

いま1つの国立国語院のサイトには 아니요, つまり 아니+~요についての次のものがあり, 少なくともホームページ上の-요/-이요関連の記事はこれで全てである⁽⁸⁾ :

조회수 : 5198 “다음 물음에 ‘예, 아니요’로 답하십시오”에서 ‘아니오/아니요’ 중 맞는 것은?

“다음 물음에 ‘예, 아니오’로 답하십시오.”라고 할 때 ‘아니오’는 틀리고 ‘아니요’가 맞는 말입니다. ‘아니오’는 “이것은 연필이 아니오.”처럼 한 문장의 서술어로만 쓰입니다. “이것은 연필이 아니요.”는 틀린 문장입니다. 아랫사람에게는 ‘응’, ‘아니’로 대답할 것을 윗사람에게는 ‘예, 아니요’를 써서 대답한다고 할 수 있습니다.

예) [물음] 오늘 철수 봤니?

[대답] 응, 봤어./예, 봤습니다. 아니, 못 봤어./아니요, 못 봤습니다.

아니오は「1つの文の述語としてだけ用いられる」と述べ, 「“응”, “아니”で答えるものを目上の人には“예”, “아니요”を用いて答える」としている。従って「次の問いに“예”, “아니요”で答えなさい」とするのが正しいというわけである。5198という照会数の多さも, この問題がいかに難しい問題であるかがよくわかる。先にも言及したごとく, 韓国で発行されている朝鮮語教材にも, この아니요を아니오と表記したものが, しばしば見出せるほどである。

ここでも述べているように, もちろん아니오は指定詞아니다の하오体である。아니요は間投詞아니に丁寧化の-요/-이요をつけた形であるがゆえに아니요しかないわけである。なお, 아니요の短縮形아뇨も国立国語院の辞書では認めている。なお, この問題は野間秀樹・金珍娥(2005:

123) でも扱っている。

以上、国立国語院でも少なくとも形態の認定上、そして正書法上、-요/-이요の表記についての明確な記述は得られないことを見た。

2.3. -요/-이요が現れる環境と形態

2.3.1. -요/-이요の環境と分布に関する先行研究の見解

「リスニングドラマ」の形をとったとする、朝鮮語教材である兼若逸之(2003)には、この-요/-이요が多数現れる点に興味深い。「ドラマ」という形式であるが故に、実際に〈話されたことば〉ヘリアルに近づけようとする意図が見て取れる。〈書かれたことば〉ではここまでの頻度では-요/-이요は現れないのである。例を挙げれば、「저기요.」「어디요?」「어디 가세요? —— 월드컵 경기장이에요.」「회현역이 어디예요? —— 회현역이에요. 4호선의 25번 역이에요.」「왜요? 저도 그냥요.」「그런데 지금 몇 시예요? —— 지금이요? 3시 20분이에요.」「에? 제가요? 저, 내일 서울 경주 세장, 10시 거요.」「세 장이요?」「아, 그래요. 언제요? —— 내일부터 5일간이요.」「네? 언제요? —— 토요일이에요.」など、ほとんどのユニットにそれぞれ複数現れるほどの頻度で出現し、枚挙にいとまがない。残念ながら、-요/-이요という形の選択についての統一的な解説はないが、挙げられている用例から察するに、基本的には母音で終わる要素には-요、子音で終わる要素には-이요を用いていることがわかる。1例、「그냥요.」だけが子音で終わるにもかかわらず、-요を用いている。兼若逸之(2003)のこの分布は、後述するように、実は実際の用例の調査をよく反映している。

さて分布について、母音で終わる要素に-요を用いるとする点では、既存の文法書、辞書、学習書を問わず、基本的に一致している。文末であろうと、文中であろうと、すべて一様に-요で現れる点でも一致している。-요単独説に見える先行研究の多くは、実は子音で終わる要素につく-요の例を示していなかったり、子音で終わる要素につく場合はどうなるかという言及そのものがない。菅野裕臣(1981: 164-165)などはそうしたグループに属する。

さてここで注目すべきことに、子音で終わる要素につく場合を示しているように見える先行学説は、子音で終わる助詞類や語尾類につくものしか示していないことが大部分である。国立国語院のFAQもそうだったし、高永根(1989: 296-297)で「このほかに“요”は一般的な助詞のあとにもつくことがある」という記述で挙げられているのは「제가요, 도망어요, 오늘은요」であった。연세대학교 언어정보개발연구원(1998)と이희자·이종희(2001: 725-726)は「선생님, 저는요?」「시장에를요?」と、子音で終わる要素では、助詞についた同じ例だけがあがっている。국립국어연구원(1999)でも子音で終わる要素につくものは、「그렇게 해 주시지만 하면요 정말 감사하겠습니다」と語尾-면につくものだけであった。梅田博之(1985: 174)では그럼요という1単語の解説に「そうですとも。そのとおりです(相手の意見に強く同意する間投詞。요をとれば丁寧でない言い方になる)」という記述が見えるだけで、総体としてどうかはやはりわからない。なお、그럼の-로も造語を問題にするなら、語尾類だともいえる形である。こうした点を総合すると、-요単独説に見える先行諸研究の大部分は、母音で終わる要素につくか、子音で終わる要素につくかという点には、無意識ないしは無関心であって、子音で終わる要素につくと考えているように見えても、その実、子音で終わる実詞類ではなく、子音で終わる助詞類や語尾類のことしか眼中になかった⁽⁹⁾ということがわかる。

子音で終わる要素にも-요を広く用いると言明している単独説は、「책요? (本ですか)」をあげて記述している内山政春(2004)くらいのものである。

-요/-이요説に立つ Martin・李敦河・張聖彦(1968: 1334)の先の引用を今一度確認する：

-이요 iyo, pcle. (polite) [Shape is 요 after vowel.] 1. (after noun expressions, makes polite sentence-fragments.) 누구요? —순경이요.
“Who (is it) ?” “The police.” // 전보요! —저한테요? “Telegram!” “For me?” // 그럼이요 ... Well, now.... (以下해요体の-요の記述が続く)

「요 yo, 1, 2. alternant after vowel of -이요 iyo: 1」という記述, そして上の記述からして, 母音で終わる要素には -요, 子音で終わる要素には -이요としているようである。ここでは明示的に子音で終わる名詞が, 例としてあげられている。ただ残念ながら逆に, ここでは子音で終わる助詞類, 語尾類につくときはどうなるのかが, 示されていない。

-요/-이요の環境と形態をめぐるこうした問題に, 最も詳細に解答を与えているものとして, まず野間秀樹 (2004: 100-101) を挙げることができる。「그 자료 어디서 찾았어요? — 인터넷이요,」 「내일 박 선생님이 오세요. — 내일이요?」 「저, 사실은요, 어저께요, 제가요……」などを始めとする例を挙げ, 形態のみならず, 発音や正書法にも言及している:

つまりこの -요/-이요はことばを丁寧なものにする丁寧化語尾なのです。(中略) 母音で終わる単語, -ㄹㅇや-ㄹㅇなどで終わる語尾の類には-요がつき, 子音で終わる単語には普通, -이요がつきます。

なお, この丁寧化語尾は, たとえば「꽃이요」(花です)なら [꼬시요]あるいは [꼬치요], 「책이요」(本です)なら [채기요]と, いずれも3音節で発音されることが多いので, これを「꽃요」や「책요」と書くのは好ましくありません。こうかくと常に2音節で, しかも [꼬뎡]や [꼬녕], [챙뇨]などと発音することにもなってしまいます。

上は「助詞」を立てない記述なので, 「語尾」と呼ぶものにはいわゆる「助詞」も含まれている。

さらに, 野間秀樹・金珍娥 (2004: 43-45) でもほぼ同様の見解を示している:

-요は母音で終わる単語や, -ㄴㅇ/ㅇや-ㄹㅇ/ㅇといった, -ㄹㅇ, -ㄹㅇ, -ㅇで終わる語尾類の直後に用いられ, -이요は子音で終わる単語に用いられる。付き方は実際には若干のゆれが見られる。子音で終わる

책などには채기요のように-이요が付いて、普通は [채-기-요] と 3音節で発音される。책요 [채교] [챙뇨] のように-요が付いて 2音節で発音されることはあまりない。また저는요 [저는뇨] (私はですね) に見えるように、-요は子音で終わる要素に付くときは、ㄴ [n] の挿入が起こりうる。

(用例省略)

また、次の「정말」のように、-요/-이요の付き方や発音にバリエーションがあるものもある：

정말이요? — 정말요? 本当ですか。

[정마리요] [정말료] [정마료]

「助詞」を記述に用いている金珍娥 (2005: 12-18) では、さらに簡潔に、次のように整理している：

母音で終わる単語。助詞類、語尾類 + -요 [ヨ]

子音で終わる単語 + -이요 [イヨ]

金珍娥 (2005: 12-18) では次のようにこの-요/-이요だけで成り立っている会話を示し、指定詞を用いていない会話であることに注意を喚起している：

A : 숙제는요? — B : 아직이요. — A : 내일 수업은요? —

B : 아침 아홉 시부터요. — A : 정말이요? 그렇게 일찍이요?

— B : 그럼요. — A : 교재는요? — B : 이 책이요.

上の会話は全て-요/-이요を用いずに言うこともできますが、そうするとぞんざいになってしまうわけです。また、指定詞-이다 (……である) は1つも用いられていない会話であることにも注目しましょう。

現代朝鮮語の丁寧化のマーカ “-yo/-iyo” について (野間) (53)

-요/-이요の環境と分布については、これら一連の記述が最も詳細なものである。それでは〈書かれたことば〉と〈話されたことば〉を調べ、実際にはどうかということを検証してみよう。

2.3.2. 〈書かれたことば〉に現れた -요/-이요

実際に〈書かれたことば〉でこの-요/-이요がいかに現れるか、インターネットのサイト上でのありようから観察してみよう。

朝鮮語の名詞のうち、いわゆる使用頻度が高いとされる名詞のいくつかに-요/-이요がついた形を、Google Koreaの「高級検索」を用いて検索してみることにする。「韓国語」のサイトのみを対象に検索し、最初の100例を見て、本稿で対象とする-요/-이요でないもの、判断不可能なものがその100例中にどれだけの割合で存在するかを見て、誤差率の分だけ修正を加えた数値で比較する。Googleの対象自体が日々動いていることもあって、もちろんこれほどこまでも概数であり、目安に過ぎないが、-요/-이요が一般にどのように認識されているか、その一端は知ることができよう：

	修正値	誤差率	粗 値
시간이요	23288	18/100	28400
시간요	6973	22/100	8940
집이요	9945	⁽¹⁰⁾ 15/100	11700
집요	270	⁽¹¹⁾ 48/50	13500
앞이요	⁽¹²⁾ 2386	⁽¹³⁾ 3/100	2460
앞요	245	⁽¹⁴⁾ 3/100	253
책이요	12792	22/100	16400
책요	4358	25/100	5810

なお, 「책이요」 と 「책요」 の用例からいくつかを下記に示しておく :

「책이요」 ; 文の終結部で——

책이요? 알아갈수록 재미있어요, 개그맨 김미화 씨.

“이 책이요? 처음엔 홈페이지에 신변잡기식으로 재미삼아 쓴 글이었어요.

「책이요」 ; 文中で——

출간하신 책이요 어디서 구하죠?

랩뷰 프로그램 이해 책이요~ 현재 구입 가능한지요?

탄탄수학이라고 말씀하시는 책이요 원래 이름이 뭐가요?

「책요」 ——

그는 “저기……, 책요?” 소리를 치면서 숨을 헐떡거리며 따라왔다.

책요? 무슨 고시공부하십니까?

아, 그 책요. 잠시만요.” 여자가 책이 얹혀 있는 테이블로 갔다.

このように簡単な調査をただけでも, 子音で終わる名詞にも -이요 が用いられており, しかも子音で終わる名詞には, -요より -이요のほうが圧倒的に多く用いられていることが, 見て取れる。また, 文末, 文中をとわない。正書法上の明確な規定もなく, 国立国語院などで明確な指導が行われているわけでもないのに, なぜ -이요と表記するのか? 答は簡単である。話者たちがまさに -이요と発音しているからにほかならない。人々が -이요と表記するのは, まさにそう発音しているからなのである。少なくとも言語事実に立脚するとき, -요単独説は根拠のないものだといわざるをえない。

なお, 次はインターネットサイト上に現れた表記の問題に対する一見解である :

발행년: 2000년 발행월: 9월호(통권 418호)

‘집이요’일까, ‘집요’일까?

새국어 소식 우리말 규정

일상 생활에서 흔히 쓰는 말 가운데는 성격이 분명하지 않은 것이 있다. 1과 같이 묻는 말에 대한 대답도 그런 것 중의 하나이다. (1) 어디 가세요? (2) ㄱ. 집이요 / 학교요. ㄴ. 집이오. (2ㄱ)의 집이요, 학교요에는 모두 ‘요’가 들어 있다. 얼핏 보기에는 ‘집’과 같이 받침이 있는 말 다음에는 ‘이요’가 붙고, 학교처럼 받침이 없는 말에는 ‘요’가 붙는 것처럼 보인다. 그렇지만 다음과 같은 예문을 볼 때 이러한 생각은 옳지 않다. (2) ㄱ. 혼자 사니 편하세요? ㄴ. 마음은요. ㄷ. 마음은이요. (3) ㄱ. 결혼하신다니 좋으시겠어요? ㄴ. 그럼요. ㄷ. 그럼이요. 위의 예를 볼 때 받침이 있는 말 뒤에도 ‘요’가 붙음을 알 수 있다. (2)와 (3)처럼 받침이 있는 말 뒤에서 ‘요’만이 가능하고 ‘이요’는 불가능하다. 이는 받침이 있는 말 뒤에도 ‘요’가 붙는 것이 원칙이라는 추정을 가능하게 한다. 그리고 이러한 추정은 ‘집이요’의 ‘이요’가 문법적으로 설명하기 어려운 형태라는 점에서 타당성이 있다. ‘집이요’는 ‘집(명사)+이-(서술격 조사)+요(보조사)’로 분석이 되는 것으로 생각해 볼 수 있다. 그러나 국어에서 서술격 조사 다음에 보조사 ‘요’가 붙는 경우가 없다. 서술격 조사 다음에는 (4)와 같이 종결 어미가 오는 것이 원칙이고 ‘요’는 (5)와 같이 문장이 끝난 다음에 붙는 것이 원칙인 것이다. 그렇다고 ‘이요’를 하오체 ‘이오’의 잘못으로 볼 수도 없다. 위의 예문의 맥락을 볼 때 하오체이기 때문에 하오체 종결형인 ‘이오’는 쓰일 수 없기 때문이다. (4) ㄱ. 이것은 책이오(책+ -이+ -오) ㄴ. 나는 철수가 아니오(아니+ -오) (5) ㄱ. 꽃이 예쁘지요(예쁘- + -지+요) ㄴ. 빨리 뛰어요(뛰- + -어+요) 그러므로 (2ㄱ)의 ‘집이요’는 ‘집요’를 잘못 쓴 것이라고 할 수 있다. 여기서 ‘요’는 비격식 존대를 나타내는 보조사 ‘요’가 확대되어 쓰인 것으로 보아야 한다. 즉, 보조사 ‘요’가 핵심적인 정보를 나타내는 체언에 붙어 청자에 대한 존대의 뜻을 나타낸 것이다.

(氏名削除)/(大學名) 석사과정 졸업(새국어소식) 8 월에서 발췌, 수록한 것임.

上の主張を要約すると次のとおりである：

- ① 「집이요」は一見正しいように見えるが、「마음은이요」や「그림이요」でわかるようにパッチムがあっても「-이요」と書くのではないことがわかる。
- ② 「집이요」と書くと「叙述格助詞」つまり指定詞の-이다の-이-を書くことになるので、これは誤りだ。

こうした見解である。もちろん「집」のあとと「마음은」や「그림」のあとを同じく書かねばならないという前提が予めあるわけではないので、①は論理的に成り立たない。また、「집이요」と書いたからといって、必ずしも指定詞を用いたことになるというわけではないので、②もまた論理的に成り立たない。つまり全く説明としては成り立たない見解なのであるが、これに類する見解は実は研究者の中でもしばしば見られるのであって、ここで確認しておいてもよいであろう。

집이요か집요かという問いは、正書法の基本がそうであるように、-요や-이요がどのような環境でいかに現れるかという言語事実に立脚して決めるべきもので、「마음은이요」や「그림이요」が現れないからといって、「집이요」も現れないという保証はどこにもないわけである。むしろ、話者たちが [지비요] と発音するがゆえに、「집이요」と書くのであって、上の調査でもわかるように、一般には広く単に「집이요」と書くという程度にとどまらず、ほとんどの話者が「집요」と書かず、「집이요」と書くのである。もちろん指定詞であろうからという認識を根拠にして「집이요」と書いているわけでもない。

こうして、〈書かれたことば〉についての簡単な調査でさえ、子音で終わる名詞に-이요が用いられていること、それも-요をはるかに凌駕する形で用いられていることが確認できるのである。そしてそのことは

現代朝鮮語の丁寧化のマーカ―“-yo/-iyo”について(野間) (57)

まさに [-이요] と発音しているがゆえにそう書かれるのであろうということを用意させる。そこで我々は実際に〈話されたことば〉ではどうかということ調査すればよいことになる。

2.3.3. 〈話されたことば〉に現れた -요/-이요

ここでは20歳代, 30歳代, 40歳代のソウル方言話者の自然会話を調査した。⁽¹⁵⁾ 初対面の2人による, 28組, 異なり人数56名の対話である。

結論から言えば, 次のように, 母音で終わる単語や子音で終わる助詞類, 語尾類に -요がつく例は, 言うに及ばず, 子音で終わる単語に -이요が用いられた例も, 子音の種類を問わず, 枚挙にいとまがない:

男性40代	뭐, 어디 사십니까? ⁽¹⁶⁾
男性30代	저 <u>요</u> ?. 암사동 삽니다.
女性30代	암사동 <u>이요</u> ?
男性40代	예.
男性40代	하신 지는 얼마나 됐습니까?
女性30代	11년 <u>째요</u> .
男性40代	허, 11년.
女性30代	에어로빅부터 시작했으니까 <u>요</u> .
男性40代	그럼, 전문가이시네요.
女性30代	아아, 나름대로는 <u>요</u> .
男性40代	우와.
男性40代	지금 어, 어떻게 되세요? 나이가.
女性30代	제가 서른 셋입니다.
男性40代	서른 셋 <u>이요</u> ?
女性40代	고향이 어디예요?
男性30代	서울 <u>이요</u> .
女性40代	서울?
男性30代	예.
男性30代	아, 대표곡 있나요?
女性20代	대표곡 <u>이요</u> ?

- 男性30代 예.
- 女性30代 그러면 학교 휴학 중이시면은 몇 학년?
- 男性20代 2학년 휴학 중이구요.
- 女性30代 2학년이요?.
- 男性20代 예.
- 男性20代 아 근데 영어를 해야 되는데 좀 잘하는 방법 있나요?
- 女性30代 예. 영어 잘하는 방법이요?.
- 男性20代 예.
- 男性30代 멋진 일은 아니구요, 그냥 즐기고 있습니다, 일을.
- 女性40代 일어요?.
- 男性30代 예.
- 男性30代 자제분하고 보내는 시간이 많나요?
- 女性40代 대부분이요.
- 거의 아이하고 거의 생활하다시피 해요.
- 男性30代 제가 95년도에 어학연수를 갔다 왔었어, 왔었어요.
- 男性20代 어디류요?.
- 男性30代 예, 동경이요.
- 男性20代 아.
- 女性30代 a 이 근처에 사는 거예요?
- 女性30代 b 경기도 하남이요.
- 女性30代 a 아, 하남시에서.
- 女性30代 b 예에.

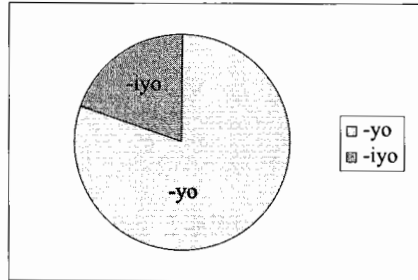
子音で終わる単語に-이요가用いられた例は, このほかにも「아이, 딸이요.」(いや, 娘ですよ: 30代男性), 「얼굴이요.」(顔がですか: 40代女性), 「아, 돌이요?」(아, 満1歳ですか: 30代男性), 「결혼 이요?」(結婚ですか: 30代女性), 「지금 2학년이요.」(今, 2年生です: 20代男性), 「02학번이요.」(2002年度入学です: 20代女性), 「여행 이요?」(旅行ですか: 20代女性)など, 話者の年齢や男女も問わず現れる。こうした事実を鑑みると, -요単独説は簡単に覆されてしま

うのである。

2.3.3.1. 〈話されたことば〉に現れた -요/-이요 の比率

〈話されたことば〉に現れた -요/-이요 の比率を念のために見ておこう。これはそれぞれの会話の最初の 5 分間に現れた -요/-이요 の出現頻度数の総計を比べたものである：

-요	241 例
-이요	60 例
計	301 例
文の総数	4730 文



もともと母音で終わる単語や語尾が多いので -요 が -이요 より多く出現しているが、この -이요 の出現比率は、やはりなんぴとたりとも無視することはできない。どうしても -요/-이요 が 順当な見解だと言わざるをえまい。

2.3.3.2. 子音で終わる単語についた -요

なお、子音で終わる単語に -이요 が用いられた例も、わずかだが見出せる。「아, 그러면 계속 그 예술쪽으로 하시네요? — 그럼요」(そうなんですよ：20代女性), 「그럼요。」は30代女性にも現れている。「정말요?」(ほんとはですか：20代男性), 「예, 강남요。」(ええ, 江南です：30代女性) もそうであった：

女性30代	저는 좀 더 되는데 부담 안 되세요?
男性40代	부담 <u>요</u> ?
男性40代	부담이 좀 되네요.
女性30代	전공은 뭐 하시는데요?
男性20代	예, 관광 <u>이요</u> , 관광.
女性30代	관광?
男性20代a	그럼 2학년 때 해 보지 그래요, 일하는 거?
男性20代b	그니깐, 2학, 군대 언제 가세요?
男性20代a	2학년 끝나 <u>구요</u> , 저는.
男性20代b	어.

2.4. -요/-이요의形態と正書法

-요单独説はいともたやすく崩れてしまった今, こうして観察してきた -요/-이요の分布を総合すると, 概ね次のようになるであろう:

-요と-이요の分布

母音で終わる要素につくとき	-요 저 <u>요</u> ? 11년 <u>째요</u> , 휴학 중 <u>이구요</u> .
子音で終わる助詞類, 語尾類につくとき	-요 일 <u>어요</u> ? 나름대로는 <u>요</u> , 시작했으니 <u>깐요</u> .
子音で終わる実詞類につくとき	多くは -이 <u>요</u> だが - <u>요</u> も 암사동 <u>이요</u> ? 서른 셋 <u>이요</u> ? 서울 <u>이요</u> , 대부분 <u>이요</u> .

この結論は概ね野間秀樹・金珍妮 (2004: 43-45) の見解ほぼそのものである。もちろんこれらはどこまでも大きな傾向を示すものである。なお, 子音で終わる多くの実詞には -이요がつくが, 単語によってその出現度に大きく差があるものの, -요も現れうる。-요の出現と発音の速度との関わりがあるいはあるかもしれない。그럼요などはまず -요しか現れず, 1つの固定した間投詞と見るべきかもしれない。

また, 助詞類や語尾類はほぼ -요だが, -이요で現れる場合もないわ

けではない。依存名詞と助詞がありうるので、正確さに著しく欠けるが、「만큼이요」は Google の検索では粗値で5700例、「만큼요」は541例である。「죽도록이요」「밤새도록이요」など語尾についた「-도록이요」は104例、「-도록요」は5590例である。

2.5. -요/-이요の正書法

さて正書法の問題を確認しておこう。現行の正書法上に -요/-이요 についての規定はないのであった。上で確認したような形態の分布を示す以上、全てを -요 で書くわけにはゆかない。なぜなら、ハングルの正書法の原則上、[-이요] で現れるものを、-요 とは書けないからである。逆に -이요 を書くものを [요] と発音するといったことは事実上、行われている。例えば「하지요」を [하쵸] と発音するなどはまさにそうした例であるし、「하십시오」を [하십쵸] と発音するなどは、2音節に書いて1音節に発音する典型的な例である。現実の言語生活、ハングルの文字生活の上で2音節のものを1音節で発音することは行われているわけである。ところが、1音節に書いて2音節に発音するといったことは、長母音の場合に2音節分の長さを発音するという以外、基本的に行われていないのである。「책요」と書いて、[채기요] という発音は行われていない。つまり常に「책요」と書くと、[채기요] という発音は許されないことになる。実際は [채교] や [챙뇨] より [채기요] がはるかに多く行われている発音であるにもかかわらず、である。こうしたわけで、表記は -요 と -이요 を書き分けるのが理にかなっている。

正書法上での規定がない以上、言語事実⁽¹⁷⁾に立脚した表記しかあり得ない。そして正書法にも当然のことながら、-요/-이요 についても、表記上、書き分けるべきことを、明記するべきなのである。

朝鮮語教育の現場では、上のように細かな記述は避けて、野間秀樹・金珍娥(2004: 43-45)の見解ほどに留めるのが、妥当なところであろう。

3. -요/-이요の機能

3.1. -요/-이요の機能についての既存の考え方

-요/-이요の機能についての既存の考え方は、先に引用した中に既に見えている。해요体を作る -요以外についてのいくつかの説を発行年代順に要約すると次のとおりである：

Martin・李敷河・張聖彦 (1968) polite particle

菅野裕臣 (1981: 164-165)

接続形の上称形。接続形に -요をつけて目上に対するていねいさをあらわすことがあります

野間秀樹 (1988: 76-77), 野間秀樹 (2000: 59)

聞き返しの語尾

菅野裕臣他 (1988: 642)

話し言葉。語尾。-으以外の体言語尾、連体形以外の用言の形、副詞等(冠形詞を除く)の末尾につく。「……ですね」

高永根 (1989)

높임 (高める)。一般的な助詞のあとにもつくことがある

深見兼孝・多和田眞一郎 (1993)

「ていねいさ」(と名詞に直接する場合、および語尾として機能する場合は「文終結」)を表す機能しかない

李相億他 (1994; 2004: 48)

‘-이요’は上称形の語尾で‘——のことですか’の意味である。

‘-이요’は確認やくりかえしてたずねる時、使われる。

‘-이요’は子音で終わる名詞に付く。

연세대학교 언어정보개발연구원 (1998) 助詞。

[1] [独立した句成分の後ろにつき] ことばを結ぶのに用いる。

[2] 独立的な句成分のあとについて用いられ、口癖のように文の間にも用いられ、言うべきことばを選んだり、ためらうのに使用される。

現代朝鮮語の丁寧化のマーカ―“-yo/-iyo”について(野間) (63)

국립국어연구원(1999) 補助詞。

- ① 《主に體に用いられる終結語尾や一部하계體に用いられる終結語尾の後ろについて》聞き手に尊待の意を表す補助詞。格式を整えねばならぬ相手にはそれほど用いられない。
- ② 《体言や副詞語、連結語尾などの後ろについて》聞き手に尊待の意を表す補助詞

이희자・이종희(2001: 725-726)

文の終結助詞。文の中間に用いられる

内山政春(2004: 53) 聞き返し

野間秀樹(2004: 100-101), 野間秀樹・村田寛・金珍娥(2004: 61)

丁寧化語尾

野間秀樹・金珍娥(2004: 38, 43-45)

丁寧化の応答語尾。丁寧化の中断語尾

金珍娥(2005: 12-18), 野間秀樹・金珍娥(2005: 104-108)

丁寧化のマーカ―

3.2. -요/-이요の環境と文法的カテゴリー、用法、そして機能

これらを見ても分かるように、結合の環境についての記述を除けば、文法的な機能についてはほとんど「ていねいさ」「丁寧」「尊待」といったカテゴリーでくくれるようである。丁寧さを表すことはさほど異存のないところのようである。なお、「ことばを結ぶのに用いられる」「言うべきことばを選んだり、ためらうのに使用」など、それ以外の点を述べるものがあるが、これは機能というより用法の側面を述べたものだと考えよう。

また、文法的なカテゴリーとしては、助詞を認める立場は助詞、助詞類を語尾とする立場は語尾としているだけで、これは-요/-이요そのものの概念規定が異なっているというより、文法記述全般の立場の違いにすぎない。「丁寧化のマーカ―」は助詞か、語尾かという選択を避けた機能的な名付けだといえよう。

3.3. -요/-이요の機能と指定詞-이다

結論的に言って, -요/-이요の機能や用法については, 教材ながら, 1つの課の中心的な学習単位として設定し, 6ページ以上にわたって述べている金珍娥(2005: 12-18)が圧倒的に詳しい。ドラマの「여기가 민속촌이에요. —정말이요?」の用例に対し, この-이요が「丁寧化のマーカ―」であることを述べたのち, 次のように指定詞-이다との違いにまで言及している。野間秀樹(2004: 100-101)の簡単な言及を除けば, 指定詞との違いに本格的に言及しているのは, この金珍娥(2005: 12-18)が初めてで, かつ包括的なものである:

こうした場合に-이다を用いて「정말이에요?」「정말입니까?」(本当ですか)という, あいづちではなく, 「本当かどうか」という, 真偽を尋ねる文になってしまいます。このように指定詞は「何々が何々である」のようにものごとを言い定めるときに用いるわけです。日本語にすると指定詞の정말이에요? も丁寧化の정말이요? も「本当ですか」くらいにしか表せませんので, 注意が必要です。

また, 指定詞-이다ではいわゆる「ㄴ挿入」が起りえないが, -요/-이요では起りうることも指摘している。「ㄴ挿入」はつとに菅野裕臣他(1988: 642)⁽¹⁸⁾も指摘しているところである。指定詞との違いを要約した部分を引用する。-요/-이요と指定詞-이다との文法的な違いはこれにつきるといってもよいほどである:

指定詞:- (이)에요 [(이)에요]

基本的には体言につく。

「何々は何々だ」と, 言い定めるのに用いる。

指定詞-이다 (……である) という用言が活用した形。

해요体のほか, 합니다体など丁寧からぞんざいまで, 異なった文体の形がある。

過去, 推量, 婉曲などさまざまな形がある

丁寧化のマーカ―:-요 [ヨ] /-이요 [イヨ]
一部の間投詞や冠形詞などを除いて何にでもつく。
聞き手に対して丁寧に言うのに用いる。
助詞あるいは語尾の仲間で、活用して形が変わることがない。
これ自体が丁寧な文体で用いるもので、他の文体の形はない。
過去、推量、婉曲などの形は存在せず、形はこれだけ。

場合によっては上の両方が使える場合もありますが、意味が変わってくるわけです。

また指定詞-이다とこの-요/-이요との違いについては、野間秀樹・金珍娥（2005: 104-108）が「丁寧化の-요 [ヨ] /-이요 [イヨ]と指定詞の-이다 [イダ]との違いをもう少し詳しく説明してください」という質問に答える形で、さらに詳しく展開している。本稿と基本的に立場を同じくするものであるので、それに沿った形で確認してみよう：

（質問にぞんざいに答えます。）

뭘 찾아요?	——	책.
何を探してるんですか。	——	本。
어디 가요?	——	시장.
どこに行くんですか。	——	市場。
정답은 몇이라고 생각해요?	——	칠.
正解はいくつだと思いますか。	——	7。

こうした場合に、答えを丁寧にするためには、この丁寧化の-요 /-이요を用います：

(質問に丁寧に答えます。)

뭘 찾아요?	——	책이요.
何を探してるんですか。	——	本です。
어디 가요?	——	시장이요.
どこに行くんですか。	——	市場です。
정답은 몇이라고 생각해요?	——	칠이요.
正解はいくつだと思いますか。	——	7です。

この丁寧化の-요/-이요の働きをここで言えば「찾아요」(探してるんですか)や「가요」(行くんですか)などの用言を省略する代わりに用いるのだと説明している本がありますが、そうでないことは、この丁寧化の-요/-이요がなくても、全く同じ働きをしていることでわかります。この【-요/-이요】は何かの「代用」などではなく、基本的にことばを丁寧にしているだけなのです。テキストで学んだように、聞き返しなどの場合にも用います。(ゴシックも原文どおり)

要するに、指定詞は「(Aは) Bである」と「言い定める」、即ち「指定する」ものであり、丁寧化のマーカ―とは本質的に異なるものなのである。そして「AはBである」という形でAとBの2項を明示しながら積極的に言語的に表しうるとき、指定詞-이다は繫辭(copula)としての役割が色濃く立ち現れてくるのであろう。

3.4. -요/-이요の機能と「代用」説, 「省略」説

何か他の用言や文の「代用」であるとか、「省略」といったものがこの-요/-이요の本質的な機能といえないことは、上の記述で明らかであろう。「뭘 찾아요?」という問いに対して、「찾다」という「用言の代わりに」-요/-이요を用いて「책이요.」と答えているのではない。「뭘 찾아요?」という問いに対して-요/-이요はなくとも「책.」だけで答えることができるからである。つまり、-요/-이요はなくとも「책.」だけで

現代朝鮮語の丁寧化のマーカ－“-yo/-iyo”について（野間）（67）

「用言の代わりに」答える機能は備わっていることになる。-요/-이요があってもなくても、「代用」や「省略」とする考え方が示すところのものは十分に成り立っているわけであって、そうであるなら、-요/-이요は「代用」でも「省略」でもありえないのである。

聞き返しにあっても同様である。「저 학교 가요. — 학교요?」「저 시장 가요. — 시장이요?」といった対話において、「저 학교 가요. — 학교?」「저 시장 가요. — 시장?」といっても「代用」や「省略」とされるような機能は本質的に備わっている。であるとすると、いずれも聞き返しである「학교?」と「학교요?」の本質的な違いは「代用」や「省略」という点にはない。

-요/-이요用言代用説が成り立たない決定的な言語事実として、特定の用言の前提を許さぬような環境でも、この-요/-이요が用いられるという点をあげることができる。例えば、先に挙げた、金珍娥（2005: 15-16）の、-요/-이요だけで成り立っている会話が好例である。今一度見てみよう：

A: 숙제는 <u>요</u> ? — B: 아직 <u>이요</u> . — A: 내일 수업은 <u>요</u> ? — B: 아침 아홉 시부터 <u>요</u> . — A: 정말 <u>이요</u> ? 그렇게 일찍 <u>이요</u> ? — B: 그럼 <u>요</u> . — A: 교재는 <u>요</u> ? — B: 이 책 <u>이요</u> .

(A:宿題は?—B:まだですよ。—A:明日の授業は?—
B:朝9時からですよ。—A:ほんとですか?そんなに早くですか?—B:そうなんですよ。—A:教材は?—B:この本ですよ。)

こうした会話にあっては、「숙제는요?」(宿題は?)という発話に、ある特定の用言が前提とされているということは言えない。つまりある特定の用言があって、その用言が省略されることによって、この-요/-이요が現れたと決定付けることはできない。「숙제는 했어요?」「숙제는 끝났어요?」「숙제는 끝났어요?」「숙제는 냈어요?」「숙제는 생각했어요?」あるいは「숙제는 봤어요?」などかもしれない。要するに「숙제는요?」(宿題は?)という発話の前に、いかなる用言が前提とされてい

るかなど、決定づけることはできない、つまり特定の用言が前提となっているわけではないのである。つまり必要なことを必要なだけ言語として表すだけなのである。そこに例えば「숙제는 했어요?」というようなことを聞いているのだという解釈が成り立つからといって、特定の用言や特定の文、特定の発話が前提とされていることにはならないのである。なお、こうしたことは-요を用いない「숙제는?」(宿題は?)といった発話でも、同様である。

インターネットの掲示板サイトの見出しには「도서실 책이요.」「책이요~~ 보내 주셔요~~」「대출했던 책이요.」あるいは単に「책이요.」といったタイトルが無数に現れる。タイトルであるが故に、基本的にはある話題を提出するものである。これらには何らかの用言を用いた文などで解釈を加えることは可能であっても、ある特定の用言や文が前提となっているということとはできない。つまりある特定の用言や文を受けて、この-요/-이요を用いているわけではない。「ある発話に前提があるであろうこと」と、「特定の用言や文が前提となっているということ」は、全く別のことなのである。

本稿が「代用」説や「省略」説に対してあえて紙幅を割くのは、実際の教育現場での教師の対応や、教材での扱いはもちろん、文法論の場でもしばしば耳にするゆえである。⁽¹⁹⁾

3.5. -요/-이요がなくとも成立する機能

なお、「ことばを結ぶのに用いられる」「言うべきことばを選んだり、ためらうのに使用」などといった見解も、上で述べたことがそのままあてはまる。「ことばを結ぶのに-요/-이요が必要なわけではない。-요/-이요はなくとも、「ことばを結ぶ」ことは可能なのであり、「言うべきことばを選んだり、ためらう」ことも可能なのである。-요/-이요がなくとも成立するような機能を、-요/-이요の機能とするわけにはゆかない。-요/-이요の機能を求めるのであれば、どうしてもまさに-요/-이요があるなしによって見出せる点に求めねばならないし、-요/-이요が存在することによって初めて現れる機能にこそ求めねばならないのである。⁽²⁰⁾

3.6. 丁寧化のマーカ―としての-요/-이요の機能

-요/-이요があるかないか、つまり-요/-이요がつくことによって、立ち現れる機能こそ、まさに、先行の諸研究も述べているように、-요/-이요が〈丁寧さをもたらす〉という点に求められるであろう。丁寧でない対象を丁寧なものにする、これが「丁寧化のマーカ―」たるゆえんである。そして「丁寧化のマーカ―」たる-요/-이요は次のような文法的なパラダイムを成すとみることができる：

	文の非終結部	文の終結部
-요/-이요	丁寧であることを明示する	丁寧であることを明示する
ゼロ	丁寧/非丁寧に関与しない	非丁寧

노마 [野間秀樹] (1996b: 138-138, 2002: 23-24) や野間秀樹 (1997: 103-104) に倣って、文の終結部に、用言が現れる場合には基本的に述語で統合される〈述語文〉とし、用言で統合されない場合を〈非述語文〉とする。

〈述語文〉は用言の終止形で終わるとは限らないが、終止形で結ばれる〈述語文〉の場合は、用言の形の中に합니다体, 해요体, 해体といった具合に待遇法の形が明示的に示される。本稿ではこれらのうち, 해요体に現れる-요は-요/-이요とは別のものと考えるので、〈述語文〉で-요/-이요が用いられるのは主として하교요や해서요といった接続形,あるいは한다교요といった引用形ということになる。こうした場合の-요/-이요は丁寧であることを明示する働きを有すると考え得る。それが無い場合は、基本的に非丁寧ということになる。

〈非述語文〉の場合は間投詞や、名詞など、さまざまな要素が文の終結部に来るが、それらに-요/-이요がつく場合も同様に丁寧であることを明示する。これが無い場合は、それ自体としては基本的には非丁寧であるが、文中の他の要素で丁寧であることが示されることも多い。終止形述語が他の要素より前に立つ倒置文はもちろん、「예, 내일.」のように文の終結部以外の要素で文全体としては丁寧さが保たれるといった形がそれである。

「어저께요, 학교에서요, 친구를 만났거든요.」(昨日ですね, 学校でですね, 友達に会ったんですけどね。)のように, 文の非終結部に現れると, やはり基本的には丁寧さを明示する点では変わりはない。この場合に -요/-이요がない形は, 「非丁寧」を表すのではなく, 「丁寧/非丁寧に非関与的である」とするのがよかろう。「丁寧/非丁寧」は基本的には文の終結部を見るまで, 決定づけることができないからである。また「제가, …어제께…」と「제가요」となっていない⁽²¹⁾とも, 謙讓語「제가」で丁寧さは保たれよう。

3.7. 丁寧化のマーカ―としての -요/-이요の用法

基本的な機能を上のように「丁寧化」ということに据えると, さらにそれをどのように用いるかということによって, 用法を分けて考えることも可能となる。

野間秀樹・金珍娥 (2004: 38, 43-45) で「丁寧化の応答語尾」「丁寧化の中断語尾」と呼んだのはその一例である。初級用教材なので, 全ての用法を網羅しているわけではないが, いうまでもなく, 文末に主として現れるのが, 「応答語尾」, 文中に現れるのが「中断語尾」である。ここではこの「中断語尾」を「中継ぎ語尾」と呼ぶことにしよう。「聞き返し」に用いられるのは, 「応答語尾」の疑問文における用法である。もちろん「聞き返し」は -요/-이요の本質的な機能ではなく, 丁寧化という本質的な機能を持つ -요/-이요が「聞き返し」に用いられるという, 用法上の区別にすぎない。上の2つにさらに「책이요」のようなインターネットの「掲示板」のタイトルで全く新しく話題を提示するような場合に用いられるものを, 「丁寧化の提示語尾」と呼んでおこう。一般的な終止に用いられるのは, 「丁寧化の終止語尾」とでも呼ぶしかない。だが決して誤っていけないのは, これらの名称はこの形の本質的な働きを指すものではなく, どこまでも用法上の分類にすぎないという点である。そういった意味ではまた別の分類も可能であろう:

丁寧化のマーカ― -요/-이요の用法

丁寧化のマーカ― -요/-이요	文の終結部で	① 応答語尾 聞き返し。答え。
		② 提示語尾
		③ 終止語尾
	文の非終結部で	④ 中継ぎ語尾

①は「어디 가세요? — 학교요.」「저 학교 가요. — 학교요?」など、②は（掲示板のタイトル）「책이요」など、③は「공부두 하구요.」「지금 가세요. 빨리요!」といったもの、④は「제가요, 어저께요, 친구를 만났거든요.」などである。

なお、「語尾」説に立たないなら、「助詞」ということになる。そもそもこの-요/-이요は金珍娥（2006）も言うように、日本語の終助詞にも似ている⁽²²⁾。ただしこの-요/-이요の後ろにはいかなる形もつきえないという点⁽²³⁾が、そのモーダル（modal）な性格をよく表している。待遇法的な要素はモーダルなものの中でも、対聞き手モダリティに属するものであって、文にあっては一番最後に位置するものだからである⁽²⁴⁾。一方では、そうした極めてモーダルな性格のものが、文のあちらこちらに自在に顔を出すという点が、これまた終助詞的でもあるわけである。

3.8. 丁寧化のマーカ― -요/-이요と 解 体 を 形 成 す る -요

ここで받아요, 먹어요, 좋아요, 있어요, 책이에요などといった、解体の諸形を作る-요についても確認しておこう。丁寧化のマーカ― -요/-이요と 解 体 を 作 る -요は、文法的な体系を描く際には別なものと考えざるを得ない。動詞받아요, 먹어요, 形容詞좋아요, 存在詞있어요などは、-요を取り去った받아-, 먹어-, 좋아-, 있어-という形も成立するが、指定詞については책이에요から-요を取り去った책이에-という形は成立しない。なお、ソウル方言では解体の優勢である形は책이어요ではなく책이에요であるが、책이어요でもことは同様である。同じく指定詞に属する아니다（……ではない）の解体における優勢的な形は아니어요ではなく, 아니에요であって、ここから-요を取り除いた아니

에-は成立しないことがわかる。아니어-も成立しない。まさにこの点で、해요体の諸形に現れる-요は丁寧化のマーカ―と同一視することができない。책이요から-이요をとった책という形が成立するように、丁寧化のマーカ― -요/-이요は、それを取り除いても成立する形につくものだからである。

文法的な体系を描くためには、해体の諸形に-요がつくと考えるのではなく、해요体の諸形が해体の諸形と「丁寧/非丁寧」のパラダイムを成すと考えればよい。「받아요: 받아」「좋아요: 좋아」「있어요: 있어」、そして「-이에요: -이야」のようにである。そしてこれらの諸形は次のような待遇法のパラダイムを成す:

現代ソウル方言の〈話しことば〉における基本的な待遇法のパラダイム

		動詞	形容詞	存在詞	指定詞
敬意体	합니다体	받습니다	좋습니다	있습니다	-입니다
	해요体	받아요	좋아요	있어요	-이에요
非敬意体	해体	받아	좋아	있어	-이야

現代朝鮮語の〈書きことば〉における基本的な待遇法

한다体	받는다	좋다	있다	-이다
-----	-----	----	----	-----

現代ソウル方言の〈話しことば〉においては、합니다体と해요体の敬意体、해体の非敬意体という二極分解が進行し、하오体や하네体は、映画、演劇やドラマなど、擬似会話体では用いられるものの、ソウルの〈話しことば〉においては、基本的に失われつつある文体である。⁽²⁵⁾一方、〈書きことば〉においては、基本的な待遇法は한다体であり、いわゆる「話すように書く」ときだけ、〈話しことば〉におけるパラダイムを借りて来る仕組みになっていると考えてよい。

こうした考え方は、「하거든요: 하거든」「하는데요: 하는데」「할게요: 할게」「할래요: 할래」などといった諸形にも適用することができる。これらのグループは、形が敬意体と非敬意体の2つしかないわけである。

なお、これらは-요を除いても形が成立することから、해요という形を作る-요とは区別し、丁寧化のマーカ―とすることも理論的には可能

である。ただ、「해요:해」との並行的なありかたを考えると、「하거든요:하거든」のような対立においても、-요を切り離さず「-거든요」全体を語尾としておくのが良さそうである。

4. お わ り に

本稿で見たように、学習書でもこの-요/-이요を意識的に取り上げたものはほとんどなく、説明もなしに、おそらく無意識のうちに用いてしまっているものがほとんどであった。⁽²⁶⁾「왜요?」(なぜですか)といった表現が現れたら、当然言及されるべきものだったにもかかわらず、である。朝鮮語教育の分野のみならず、朝鮮語文法論でもこの-요/-이요は意識化されていなかった。そして意識化されていないがゆえに、朝鮮語文法論でも、朝鮮語教育においても、-요/-이요の重要性ということになると、いよいよ認識されていなかったわけである。

本稿ではこうして朝鮮語文法論が-요/-이요を総体としてはほとんど対象化しえていなかったことを見た。しかしながら朝鮮語文法論のこうした立ち遅れは、ひとり-요/-이요に留まるものではない。これは、実際に〈話されたことば〉を対象とした文法論がいまだ成り立っていないということの、ささやかな現われでもある。これほどまでに出現頻度の高い文法形式で、かつ談話の構成上も欠かすことのできない形式であるにもかかわらず、つまりそれなしでは極めて初歩的な会話でさえ成り立たないような、朝鮮語の〈話す〉という言語活動に基本的な点さえ支障を来すような、極めて重要な文法形式であるにもかかわらず、朝鮮語文法論は-요/-이요を自己の対象として意識化することさえできなかったのである。こうした決定的な一事でわかるように、既存の朝鮮語文法論の膨大な成果は、基本的には〈書かれたことば〉を対象としたものである。「話しことば」を対象としたと考えてはいても、実際の〈話されたことば〉の少なくとも主要な対象だけでさえ、つぶさに調べ上げた朝鮮語文法論は未だ存在しないのではないかと⁽²⁷⁾いわざるを得ない。そして〈話されたことば〉を対象化せよという朝鮮語文法論への要求は、談話研究からはもちろん、他方では1990年代後半以降活性化している、他

ならぬ朝鮮語教育の分野からも立ち起こっているといえよう。朝鮮語文法論が成すべき課題は多い。〈丁寧化のマーカー〉たる -요/-이요は、朝鮮語文法論と朝鮮語教育の新たな段階を特徴づけるメルクマール(Merkmal), 即ち、まさにマーカーでもある。

註

- (1) 本稿では実際に音声言語として〈話されたことば〉と、話されたことばに主として現れる文体としての〈話しことば〉を区別する。〈書かれたことば〉と〈書きことば〉も同様に区別する。金珍娥(2006)参照。また話されたことばの一定のまとまりは discourse (談話), 書かれたことばの一定のまとまりは text (テキスト) と呼んで互いに区別する。Noma (2005) 参照。
- (2) 用例は実際の談話による。註(12)にて詳述。
- (3) この「-는 걸요」は本稿では分析的な形の文法形式と見る。2単語以上の組み合わせが1つの文法的な働きを担う形となっているものを分析的な形という。1つの文法的な機能が分析的に2単語以上にまたがって現れているわけである。これに対してどこまでも用言が1単語に総合されて現れる形を総合的な形という。総合的な形は概ね接辞や語尾などの助けを得て構成される。総合的な形, 分析的な形については노마 [野間秀樹] (2006) 参照。朝鮮語の分析的な形を大々的に取り上げ、朝鮮語文法の中に位置づけたのは菅野裕臣(1981)が最初である。分析的な形の一部を梅田博之(1985: 275)では「助動詞連語」と呼んでいる。
- (4) また「聞き返し以外ではぞんざいで失礼になるので要注意」の記述も見える。これは「박 인수씨예요?」を하오体の「박 인수씨요?」と混同せぬようにとの、学習者への配慮である。高名な学習書であった石原六三・青山秀夫(1963: 5, 12)で하오体の形として「나는 학생이요. 私は学生です」「당신은 학생이요? あなたは学生ですか?」という類の文を提示していることなどを踏まえてのことであった。
- (5) 2005年12月10日現在。
- (6) その後出された改訂版백봉자(2006: 377)では、「'-이요' 를 쓰는 경우」という項目が加筆されている。そこでは「1. 子音で終わる名詞に主格助詞'-이' が付く場合, '-이요' を用い, 叙述節を省略する」とし, 「가: 뭐가 필요해요? ——나: 돈이요.」といった例が, また「2. 子音で終わる名詞が이다動詞と結合し, '-입니다' の代わりにする」とし, 「가: 이게 뭐예요? ——나: 추석 선물이요.」などの例が挙げられている。1は問題であるが, 2を見る限り, 少なくとも形態素としては-요/-이요を認める立場となっている。
- (7) なお, 高永根(1989: 296-297, 383-389)では用言の諸形に요がつきうるか

現代朝鮮語の丁寧化のマーカー “-yo/-iyo” について (野間) (75)

どうかに着目し、「요統合形」「요統合可能形」という概念を立てて論じている。そのうち、-(스)니다요, -(으)시다요, -것다요といった形まで対象に論じている点が注目されるが、こうした諸形式は同時代のソウル方言についてのものとは俄かに断じがたく、現代朝鮮語内での通時的な変化の中で捉えるべきものか、あるいは方言的な、もしくは社会方言的な変異と捉えるかが、今後の研究の1つの課題となろう。いずれにせよ広範な調査を必要とする。なお、本稿の調査対象である20代-40代のソウル方言話者の自然発話には、上に上げた形は1つも現れない。これらは日常で〈話されたことば〉にはまず現れないものの、テレビドラマなど、ある階層の話されたことばであるかのごとく、意識的に装って作られた文体では、しばしば見える形である。今日では노마 [野間秀樹] (2002: 96) でいうそうした擬似会話体ともいうべき文体で用いられるものだと考えておく。

- (8) 2005年1月16日現在。
- (9) 本稿脱稿後に入手した국립국어원 (2005: 589) も-요単独説であるが、「나는 비밀냉면요」という子音で終わる実詞の例が1つ挙げられている。
- (10) 誤差例は「주님은 집이요, 밥이시다。」など。
- (11) 誤差例のほとんどは「농상집요 (農桑輯要)」, 「언해태산집요 (詮解胎産集要)」や「執拗」。
- (12) 用例は「어디예요?」, 「회사 앞이요。」など。
- (13) 誤差例は「만약 적멸법에 의거하면 법이 앞이요부처님이 뒤이며, 문자법에 의거하면 부처님이 앞이요법은 뒤이니라。」など。
- (14) 誤差例には「그런 장로님이 오늘은 약한 모습을 보는것 같아 마음이 앞요……이 장로님 힘내요,」「왼쪽가슴 부근이 앞요」など「아파요」の短縮形と思われるものが多々現れる。
- (15) ソウルにて録音および録画。それぞれ20-23歳, 30-33歳, 40-43歳の男女のソウル方言話者を同数。すべて2人組の初対面, 28組, 56名は、すべて異なった話者である。談話の構成はすべて金珍娥 (2006) による。計量調査はすべてこれによる。なお、これとは別の話者で東京外国語大学にて録音, 録画。使用機器 UA-30以外はすべて SONY 製, MD Recorder MZ-B100, DV Camera Recorder DCR-PC110のほか, DAT TCD-D100, Electret Condenser Microphone ECM-360を使用。コンピュータ処理にあたっては, Roland USB Audio Interface UA-30を使用。サンプリング周波数44100Hz, SUGI Speech Analyzerを使用。
- (16) 談話の文字化は金珍娥 (2006) による。文末の「。」は文の終止を示す。「?」は疑問の機能を有する文であることを示す。「？」は疑問の機能を有する文の終止である。なお、そこでは「複線化文字システム」と名づけられた方法によって、2名の話者の発話の重なりがわかるように示されているが、本稿では-요/-이요の形を見やすくするために、文ごとに改行し、文の右揃えで提示する。

- (17) -요/-이요について正書法上の規定がないのは驚くにあたらない。実は指定詞-이다が母音の直後では바다예요のように-예요と書くのか, 바다예요のように-예요と書くのかという規定さえ, 見あたらないのである。そしてこれまた, 規定が存在するかのごとき, 大なる誤解のうちにある点でも同様である。もちろん, どちらを書いても誤りとするわけにはゆかない。そもそも正書法制定の時代に, 実際に〈話されたことば〉を見据えるような朝鮮言語学は存在していなかったのである。規定が存在するという誤解は「-이예요/-이어요」という「標準語規定」第26項の誤読であろう。
- (18) なお, 指定詞のみならず, -나/-이나, -며/-이며のような助詞類でも「L挿入」は起こらない。
- (19) 例えばこの形態は-요のみとはいえ, この-요/-이요を意識的に学習項目に組み込んでいる貴重な教材である이화여자대학교 언어교육원 (1998: 107)も用言の代用的な扱いで練習を構成している。学習者にはある意味ではわかりやすいものの, この形の本質的は逃しやすいわけである。なお, 同書においてはそれ以前に既に p. 20, 74, 96の本文にも-요が出ているが, 説明や練習はない。
- (20) 深見兼孝・多和田眞一郎 (1993) は {요} に「文終結機能」などがあるように見えても, {요} がある用例と省いた用例とを比べ, 実は {요} は「ていねいさ表示機能」のみを持っているのだと強調しており, この点, 貴重な論考である。
- (21) なお, 待遇法の諸形式で表す述語が存在していない文であっても, 談話にあっては丁寧さなど聞き手に対する待遇が speech level を支えうる。この点に関しては, 金珍娥 (2002) 参照。
- (22) 本稿では扱わないが, 합니다요などまで入れると, よけいに終助詞的である。
- (23) なお, 聞き手が複数であることを示す-들のみは「빨리요들!」(皆さん, 急いで!) のように-요の後ろに立ちうるようであるが, この-들直前にポーズがあるという見方もあって, この点は更なる調査が必要である。なお, 「빨리요!」という承接は肯定する母語話者も否定する母語話者も存在する。
- (24) モダリティと文の構造に関しては野間秀樹 (1988, 1990, 1997), 노마 [野間秀樹] (1996, 2002) を参照。
- (25) 現代ソウル方言の待遇法のパラダイムについては노마 [野間秀樹] (1996a, 2002) 参照。
- (26) 例えば, 한국어교육문화원 (2000: 123) には「왜요?」「미라씨네요?」と-요が初めて出るのが, 例が“why”であるという語彙リストが巻末にあるのみで, -요についての説明は出てこない。
- (27) こうした意味で, 日本語の首都圏の母語話者と韓国語のソウル方言の母語話者, 異なり人数160名, 80組にのぼる自然談話を対象とし, それらに現れた

現代朝鮮語の丁寧化のマーカ－“-yo/-iyo”について(野間) (77)

文末の構造を論じた金珍娥(2006)「日本語と朝鮮語の談話における文末の構造」は実際の〈話されたことば〉を対象にした文法論を目指す試みであるといえよう。

参考文献

(1) 朝鮮語で書かれた文献

- 高東昊(2004)“이-”계 조사의 “이” 탈락에 대한 통시적 연구‘朝鮮語研究 2”
東京:くろしお出版
- 高永根(1989)“國語形態論研究” 서울:서울大學校出版部
- 과학원 언어 문학 연구소 사전 연구실(1962)“조선말사전” 평양:과학원출판사
- 국립국어연구원(1999)“표준국어대사전” 서울:두산동아
- 국립국어원(2005)“외국인을 위한 한국어 문법 2 용법 편” 서울:커뮤니케이션북스
- 권재일(1994)“한국어 문법의 연구” 서울:서광학술자료사
- 金敏洙(1971)“國語文法論” 서울:一潮閣
- 김민수·고영근·이승재·임홍빈 편(1991)“금성판 국어대사전” 서울:금성출판사
- 김석득(1992)“우리말 형태론” 서울:탑출판사
- 김승곤(1996)“현대 나라 말본” 서울:박이정출판사
- 김영기(1996)‘한국어 경어법에 있어서의 자기 높임과 경어체계의 변동’“李基文教授 停年退任紀念 論叢” 서울:신구문화사
- 金鍾埴 編著(1984)“國語敬語法研究” 서울:集文堂
- 남기심(1996)“국어 문법의 탐구 I·II” 서울:태학사
- 남기심·고영근(1985;1993)“표준 국어문법론” 서울:탑출판사
- 南基心·高永根·李翊燮 編(1975)“現代國語文法” 대구:啓明大學校出版部
- 남윤진(2000)“현대국어의 조사에 대한 계량언어학적 연구” 서울:태학사
- 노마 [野間秀樹](1995)‘일본에서의 한국어 교육——어디서 어떻게, 그리고 무엇이 어려운가——’“말글생활” 제3호. 서울:말글社
- 노마 [野間秀樹](1996a)‘현대한국어의 대우법 체계’“말” 제21집. 서울:연세대학교 연세어학원 한국어학당
- 노마 [野間秀樹](1996b)‘한국어 문장의 계층구조’“언어학” 제19호. 서울:한국언어학회
- 노마 [野間秀樹](1996c)‘바람직한 한국어 교재란? ——일본어화자의 경우’“語學研究所論集”第1號. 도쿄:東京外國語大學 語學研究所
- 노마 [野間秀樹](2002)“한국어 어휘와 문법의 상관구조” 서울:태학사
- 노마 [野間秀樹](2006)‘현대한국어의 용언의 분석적인 형태에 대하여’“21세

- 기 형태론, 어디로 가는가” 고영근 외 편 서울: 박이정
- 노마 [野間秀樹]·金珍娥 (2006) ‘NHK(일본방송협회) 텔레비전 교육 방송을 통한 한국어 교육’ “한국어 교육” 제17권 2호. 서울: 국제한국어교육학회
- 閔賢植 (1984) ‘開化期 國語의 敬語法에 대하여’ “冠嶽語文研究” 第9輯. 서울: 서울大學校 國語國文學科
- 朴榮順 (1976) ‘國語敬語法の 社會言語學的研究’ 金鍾埴 編著 (1984) 에 收錄
- 백봉자 (1999) “외국어로서의 한국어 문법 사전” 서울: 연세대학교출판부
- 백봉자 (2006) “외국어로서의 한국어 문법 사전 개정판” 서울: 하우
- 사회과학원언어연구소 편 (1992) “조선말대사전” 평양: 사회과학원언어연구소
- 徐禎穆 (1983) ‘命令法 語尾와 恭遜法の 等級——근대 국어와 경상도 방언의 경우——’ “冠嶽語文研究” 第8輯. 서울大學校 國語國文學科. 서울: 塔出版社
- 徐正洙 (1984) “존대법의 연구——현대 대우법의 체계와 문제점” 서울: 한신문화사
- 서정수 (1990) “국어문법의 연구 I·II” 서울: 한국문화사
- 서정수 (1996) “국어문법 (수정증보판)” 서울: 한양대학교출판원
- 成善徹 (1970; 1975) ‘國語 待遇法 研究’ 南基心외編 (1975) 에 收錄
- 成善徹 (1990) ‘恭遜法’ “國語研究 어디까지 왔나——主題別 國語學 研究史” 서울大學校 大學院 國語研究會編. 서울: 東亞出版社
- 성기철 (1995) ‘반말의 특성’ “한양어문연구” 제13집. 서울: 한양대학교 한양어문연구회
- 申琦澈·申瑢澈 編著 (1974; 1997) “增補版 새 우리말 큰사전” 서울: 三省出版社
- 申昌淳 (1984) ‘現代國語 尊待法 概說’ 金鐘埴 編著 (1984) 에 收錄
- 야스다 [安田吉實]·孫洛範 共編 (1983) “民衆эт센스 韓日辭典” 서울: 民衆書林
- 연세대학교 언어정보연구원 (1998) “연세 한국어사전” 서울: 두산동아
- 李秉根·徐泰龍·李南淳編 (1991) “國語學講座 I 文法(I)” 서울: 太學社
- 李相億·韓美善·尹希苑·韓在永, 崔銀圭 補助, 安慶華 翻譯 (1994; 2004) 韓國語 I - III, 서울: 한림출판사
- 李翊燮 (1974) ‘國語敬語法の 體系化問題’ “國語學” 2. 國語學會편. 서울: 國語學會
- 李翊燮 (1994) “사회언어학” 서울: 민음사
- 李翊燮·任洪彬 (1983) “國語文法論” 서울: 學研社
- 이화여자대학교 언어교육원. 교재 위원 현운호·이미혜·안성희·김현진 (1998) “말이 트이는 한국어 I Student Book” 서울: 이화여자대학교 출판부
- 李熙昇 편저 (1961; 1982) “국어대사전” 서울: 민중서림
- 이희자·이종희 (2001) “한국어 학습용 어미·조사 사전” 서울: 한국문화사
- 任瑚彬·洪璟杓·張淑仁 (1989) “外國人のための韓國語文法” 서울: 國語研究會

現代朝鮮語の丁寧化のマーカ―“-yo/-iyo”について(野間) (79)

- 任洪彬(1990)『尊敬法』“國語研究 어디까지 왔나——主題別 國語學 研究史” 서울 大學校 大學院 國語研究會編. 서울: 東亞出版社
- 임홍빈·장소원(1995)『國語文法論 I』 서울: 한국방송통신대학교출판부
- 장만석·김순희(1983)『조선어토지식』흑룡강조선민족출판사
- 조선 민주주의 인민 공화국 과학원 언어 문학 연구소 사전 연구실(1962)『조선말 사전』평양: 과학원출판사
- 최현배(1937; 1971)『우리말본』서울: 정음사
- 하마노우에[浜之上幸](1994)『기능문법의 관점에서 본 “-이다”』“周時經學報” 13. 주시경연구소
- 한글학회(1992)『우리말 큰사전』서울: 어문각
- 한길(1989)『현대 국어 예사낫춤 종결 접미사에 관한 연구』“한글” 제205호. 서울: 한글학회
- 허용(1995)『20세기 우리말의 형태론』서울: 샘문화사
- 洪允杓(1985)『助詞에 의한 敬語法 表示의 變遷』“國語學” 14. 國語學會편. 서울: 塔出版社
- 黃迪倫(1976)『韓國語待遇法の社會言語學的記述——그 形式化(Formularization)의 可能性』“言語와 言語學” 第4輯. 서울: 한국외국어대학 언어연구소
- 黃燦鎬·李季順·張奭鎭·李吉鹿(1988)『韓日語 對照分析』서울: 明志出版社

(2) 日本語で書かれた文献

- 石原六三·青山秀夫(1963)『朝鮮語四週間』河野六郎監修. 東京: 大學書林
- 任翊彬·洪環杓·張淑仁(1989)『外國人のための韓國語文法』ソウル: 延世大學校出版部
- 内山政春(2004)『NHK ラジオ 안녕하십니까? ハングル講座』1月号. 東京: 日本放送出版協會
- 梅田博之(1976)『韓國語 I・II』東京: 三中堂
- 梅田博之(1979)『朝鮮語の敬語』“月刊言語” 6月号. 東京: 大修館書店
- 梅田博之(1985)『NHK ハングル入門』東京: 日本放送出版協會
- 梅田博之(1989)『朝鮮語』亀井孝·河野六郎·千野栄一編(1989)所收
- 梅田博之(1991)『スタンダードハングル講座 2 文法・語彙』東京: 大修館書店
- 大阪外国語大學朝鮮語研究室(1986)『朝鮮語大辭典』東京: 角川書店
- 兼若逸之(2003)『NHK テレビ アンニョンハシムニカ〜ハングル講座〜CDブックドラマでハングル ミサの韓国で会えたら』東京: 日本放送出版協會
- 亀井孝·河野六郎·千野栄一編著(1989)『言語学大辭典 第2卷 世界言語編(中)』東京: 三省堂
- 菅野裕臣(1981)『朝鮮語の入門』東京: 白水社
- 菅野裕臣·早川嘉春·志部昭平·浜田耕策·松原孝俊·野間秀樹·塩田今日子·

- 伊藤英人共編, 金周源・徐尚揆・浜之上幸 協力 (1988) “コスモス朝和辞典”
東京: 白水社
- 金珍娥 (2002) ‘日本語と韓国語における談話ストラテジーとしてのスピーチレ
ベルシフト’ “朝鮮学報” 第183輯, 天理: 朝鮮学会
- 金珍娥 (2005) “NHK テレビ 안녕하세요? ハングル講座” 6月号, 野間秀樹
監修, 東京: 日本放送出版協会
- 金珍娥 (2006) “日本語と韓国語の談話における文末の構造” 東京外国語大学大
学院博士学位論文
- 金東俊 (1989) ‘現代韓国語の対者対遇法の体系’ “神田外語大学紀要” 第1号,
千葉: 神田外語大学
- 徐正洙 (1978b) ‘韓国現代敬語法の推移——最近の設問調査をもとにして’ “朝
鮮学報” 第89輯, 天理: 朝鮮学会
- 徐禎穆 (1996) 平木葉子訳 ‘現代韓国語 ‘하오体語尾’ の形態論的特徴’ “朝鮮学報”
第159輯, 天理: 朝鮮学会
- 天理大学朝鮮学科研究室 編 (1980) “現代朝鮮語辞典 (改訂)” 天理: 養徳社
- 野間秀樹 (1988) “길 朝鮮語への道” 東京: 有明学術出版社
- 野間秀樹 (1990) ‘<갈것이다> の研究——再び現代朝鮮語の用言の mood 形式を
めぐって’ “朝鮮学報” 第134輯, 天理: 朝鮮学会
- 野間秀樹 (1997) ‘朝鮮語の文の構造について’ “日本語と外国語の対照研究 3
日本語 朝鮮語” 東京: くろしお出版
- 野間秀樹 (2000) “至福の朝鮮語” 東京: 朝日出版社
- 野間秀樹 (2004) “NHK ラジオ 안녕하세요? ハングル講座” 7月号, 東京:
日本放送出版協会
- 野間秀樹・金珍娥 (2004) “Viva! 中級韓国語” 東京: 朝日出版社
- 野間秀樹・金珍娥 (2005) ‘大質問館’ “NHK テレビ 안녕하세요? ハングル講座”
12月号, 東京: 日本放送出版協会
- 野間秀樹・村田寛・金珍娥 (2004) “ぶち韓国語” 東京: 朝日出版社
- 韓美卿 (1982) ‘韓国語の敬語の用法’ “講座日本語学12” 東京: 明治書院
- 深見兼孝・多和田眞一郎 (1993) ‘朝鮮語の文末部——{요} を中心として——’,
藤原与一編 “言語類型論と文末詞” 東京: 三弥井書店
- 油谷幸利 (2003) ‘이다の省略と縮約’ “朝鮮学報” 第189輯, 天理: 朝鮮学会
- 油谷幸利 (2006) ‘接続形式における日朝対照研究——朝鮮語教育の観点から——’
“朝鮮学報” 第198輯, 天理: 朝鮮学会
- 油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎 編 (小学館, 金星出版社共同編集) (1993)
“朝鮮語辞典” 東京: 小学館

現代朝鮮語の丁寧化のマーカ― “-yo/-iyo” について (野間) (81)

- Lee, Hyun Bok (1989) *Korean Grammar*. Oxford: Oxford University Press
- Lee, Keedong (1993) *A Korean Grammar on Semantic-Pragmatic Principles*. 서울: 한국 문화사
- Lukoff, F. (1993) *An Introductory Course in Korean*. Book 1-3. Seoul: Yonsei University Press
- Martin, S. E. (1964) Speech Levels in Japan and Korea. *Language in Culture and Society*. Hymes, D. (ed.). New York: Harper & Row
- Martin, S. E., 李敏河, 張聖彦 (1968) *New Korean-English Dictionary*. 서울: 民衆書林
- Martin, S. E. (1992) *A Reference Grammar of Korean*. Tokyo: Charles E. Tuttle Company
- Noma, H. (2005) When Words Form Sentences: Linguistic Field Theory—From Morphology through Morpho-Syntax to Supra-Morpho-Syntax. *Corpus-Based Approaches to Sentence Structure*. Usage-Based Linguistic Informatics 2. Takagaki, T., Zaima, S., Tsuruga, Y., Moreno-Fernández, F. and Kawaguchi, Y. (ed.). Amsterdam: John Benjamins
- Ramstedt, G. J. (1939) *A Korean Grammar*. (= MSFOu 82). Helsinki: Suomalais-Ugrilainen Seura
- Sohn, Ho-min (1983) Power and Solidarity in the Korean Language. *Korean Linguistics*. 3. Seoul: International Circle of Korean Linguistics
- Sohn, Ho-min (1994) *Korean*. London: Routledge
- Korean Language Program at Columbia University. <http://www.columbia.edu/cu/ealac/korean/>

(東京外国語大学大学院教授)